



2024 年度

活動期間：2024/01/01～2024/12/31

エコアクション 21

環境経営レポート

東名紙材株式会社

2025 年 6 月 5 日発行

1. 組織の概要

(1)事業所名及び代表者名

東名紙材株式会社

代表取締役 神谷 史朗

(2)所在地

神奈川県平塚市東八幡3丁目16番7号

(3)環境経営管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者 所長 松村 貴志

担当者 中島 みよ子

連絡先電話 0463-22-5650

FAX 0463-22-0121

E-mail nakajima@toumeisizai-kk.com

URL http://www.toumeisizai-kk.com

(4)法人設立年月日

昭和42年3月29日

(5)資本金

1,000 万円

(6)事業活動の内容

古紙問屋

古紙の回収・計量・圧縮梱包、製紙会社への販売

(7)事業の規模

活 動 規 模	単 位	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
売 上 高	円	4 億以上 10 億未満	4 億以上 10 億未満	4 億以上 10 億未満	4 億以上 10 億未満
入 荷 量	t	15,186	14,608	13,585	13,814
従 業 員	人	13	15	15	16
敷 地 面 積	m ²	1,795.25	1,795.25	1,795.25	1,795.25

2. 対象範囲

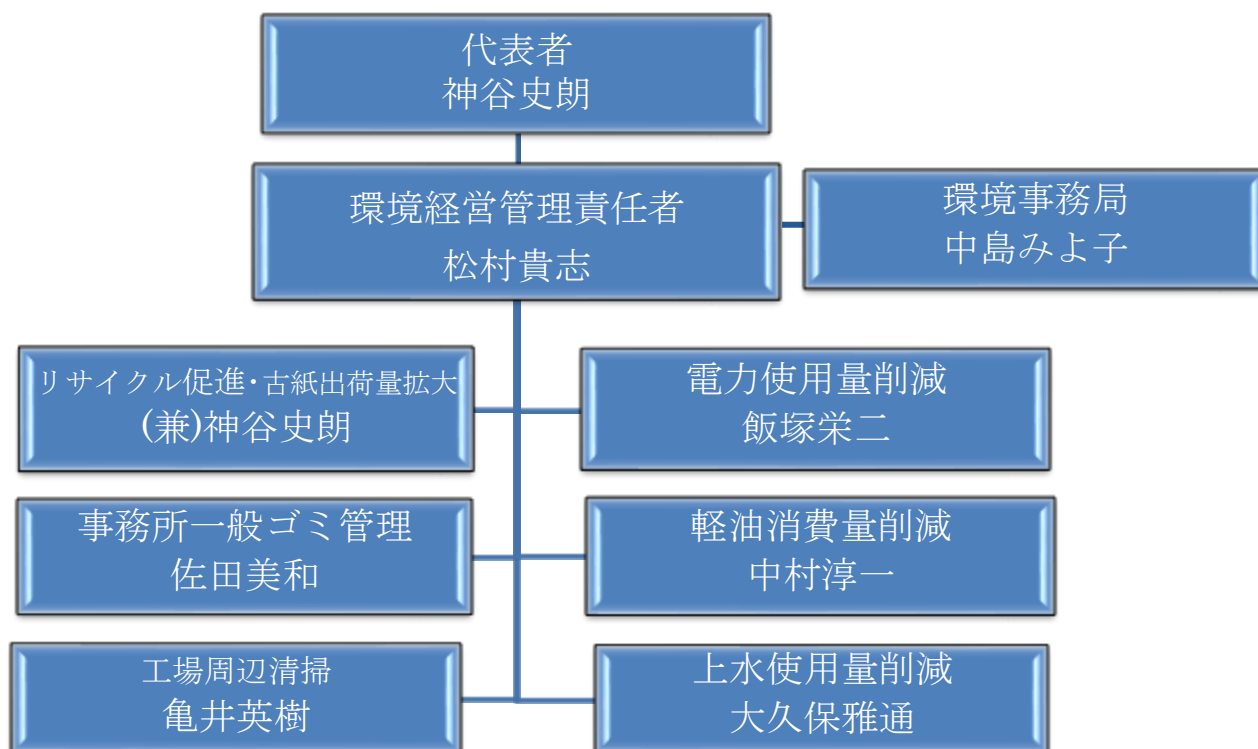
(1)認証・登録対象組織

本社

(2)認証・登録対象活動

古紙問屋、古紙の回収・計量・圧縮梱包、製紙会社への販売

3. 環境経営実施体制図



権限・役割・責任	
代表者 代表取締役	●経営における課題とチャンスを整理し、明確にする ●環境経営に関する方針（環境経営方針）を定め、誓約する ●効果的で必要十分な実施体制を構築する ●実施体制においては、各自の役割、責任及び権限を定める ●エコアクション21を運用し、維持するために経営資源を用意する
環境経営管理 責任者	●代表者に代わり、環境経営システムの総責任者としての権限・役割を有する。 ●環境経営システムの構築・運用状況を代表者に報告する。 ●環境教育の実施。 ●環境目標・活動計画における各部門の役割を各部門責任者に指示する。 ●環境経営活動実施計画の実施データを収集・管理し、事務局へ報告する。 ●外部からの苦情・要望の窓口とし、代表者に報告する
部門別責任者	●部門責任者は、環境目標・活動計画に従い、各部門の役割を部門内に周知する。 ●構内業務、及び事務所内において各部門担当者は、エネルギー(電気、軽油)使用量削減、水資源使用量削減、古紙出荷量拡大、工場周辺清掃、リサイクル促進、事務所内ゴミ管理の実施。 ●部門内の活動状況を環境管理責任者に報告する。
環 境 事 務 局	●環境経営管理責任者と連携し、環境活動実績データを集計・管理する。 ●環境経営計画の実績集計結果を環境経営管理責任者に報告する。 ●環境経営レポートを作成する。

4. 許可の内容

一般廃棄物処理施設設置許可				
許可年月日		平成 23 年 3 月 3 日	許可番号	湘セ第 29301 号
事業計画概要	施設の設置場所	古紙		
		古紙の圧縮梱包機 2 基 (段ボール：18～20t／H、新聞・雑誌：20～22t／H)		
		8：00～17：00 の内 8 時間		
		ビニールひも 廃プラスチックとして売却		
	事業敷地の全体面積	神奈川県平塚市東八幡三丁目 1300－5,1300－6,1301－1		
		1,795.25 m ²		
		工業地域, 宅地		
		①自己所有：1,492. 25 m ² (1301－1) ②借 地： 303. 00 m ² (1300－5、1300－6)		
施設の設置場所	計画地及び周辺地域の状況	北、東、南側は工場、西側は住宅（平塚ニューライフ団地）		
	搬入路の状況	・ 東側産業道路（通称テクノロード）は幅員約 15m、北側市道は幅員約 8m。 ・ 付近には、八幡小学校及び神明中学校の通学路があるが、申請地及び出入口に接する通学はない。（通学時間帯の搬出入は行わないようにする。）		

5. 施設等の状況

①中間処理施設の種類、能力及び方式等

施設の種類	処理の方式（型式等）	処理能力（t 又は m ³ ／日）	設置数	処理対象の廃棄物
圧縮梱包機 （1 号機）	古紙を圧縮・キューブ化 金属ワイヤーで結束 LB－2000－SN 特型	1 5 0 . 4 t／日 (段ボールで換算)	1	古紙
圧縮梱包機 （2 号機）	古紙を圧縮・キューブ化 金属ワイヤーで結束 LB－2000－SN 特型	1 5 6 . 8 t／日 (雑誌で換算)	1	古紙

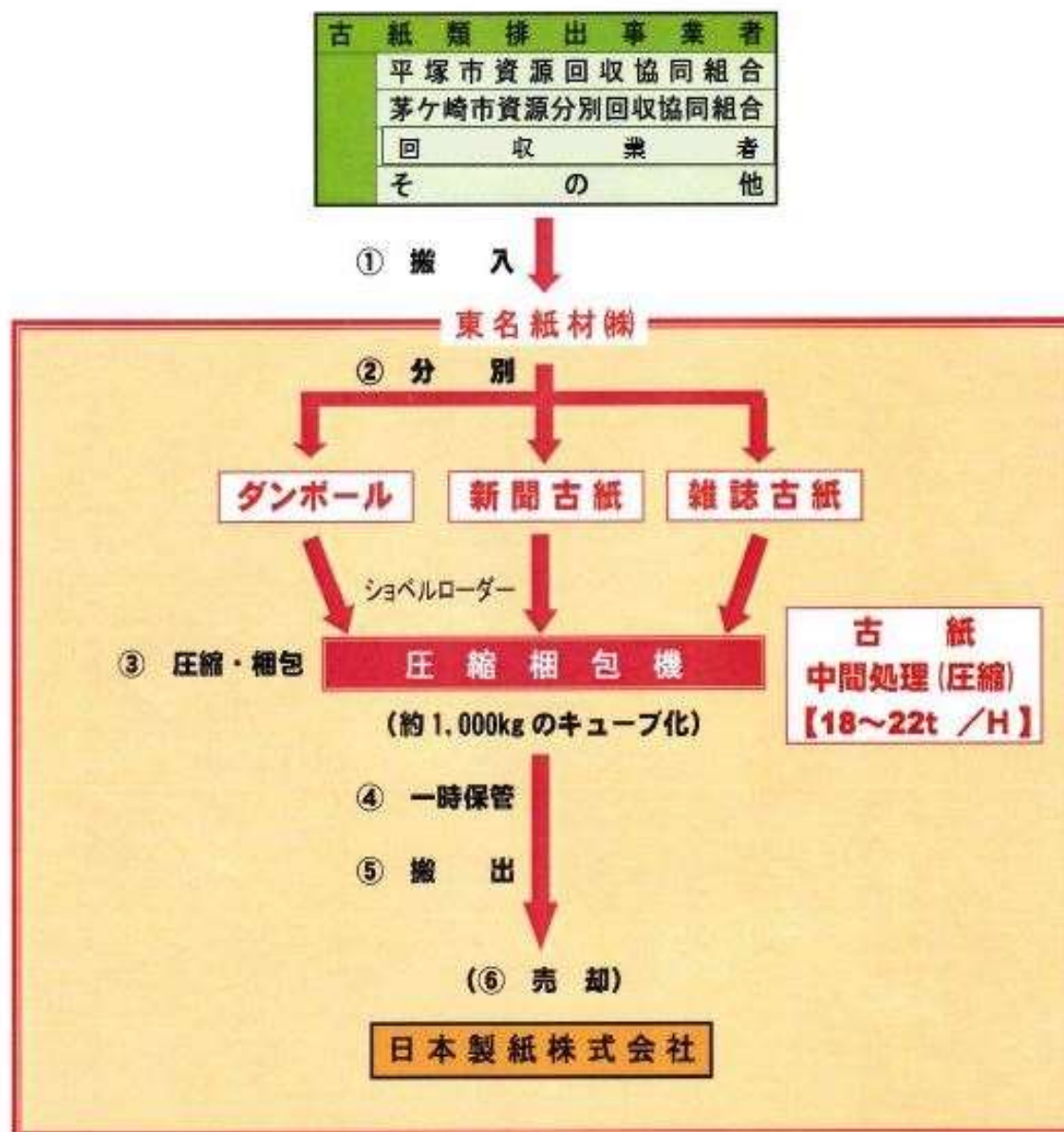
②運搬施設

種類及び社名	ショベルローダー (トヨタ)	フォークリフト (トヨタ)	トラック (いすゞ自動車)
最大積載量	2.15t	3.5 t	2t、3t、4t
数量	2 台	3 台	3 台

③処理工程図

処理工程フロー図（概要）

（古 紙）



6. 処理実績

① 環境への負荷状況 2022 年度－2024 年度（古紙の処理量 3 年間）

環境への負荷			単位	2022 年	2023 年	2024 年
古紙の処理量	収集運搬量		t			
	古紙購入量		t	14,608	13,585	13,814
	古紙再資源化量(売却)		t	14,700	13,150	14,005
	最終処分量		t			
	古紙処理後の産廃の処分量		t	5.00	5.25	4.70
	中間処理後の産廃の再資源化等量		t			
廃棄物排出量及び 廃棄物最終処分量	一般廃棄物	焼却(回収業者へ委託)	t	0.057	0.054	0.051
		最終処分量	t			
	産業廃棄物	最終処分量	t	5.00	5.25	4.70
		(業者へ委託)				

② 紙の処理量（2024 年 1 月～12 月）

処理法等		古紙の種類等		処分方法等	処理量(t)
収集運搬					
収集運搬量合計					-----
古紙購入	段ボール古紙		選別・圧縮・梱包	7,259	
	雑誌古紙			3,256	
	新聞古紙			3,298	
古紙再資源化	段ボール古紙		古紙の売却 (製紙会社へ出荷)	7,294	
	雑誌古紙			3,291	
	新聞古紙			3,419	
	再資源化等量小計			14,005	
古紙の処理合計					13,814
古紙選別 処理後の 産業廃棄物	最終処分	混合廃プラ	処理業者に委託	4.70	
	再資源化等	混合プラゴミ	RPF の原料として出荷	34.28	
		再資源化等量小計			34.28
中間処理後処分量合計					38.98

環 境 経 営 方 針

1. 環 境 理 念

当社は、地球環境の保全を最重要課題と認識し、古紙問屋としての事業活動を通して「人に優しい・地球に優しい事業所作り」をモットーにし、地球環境・地域環境に優しい社会の実現に貢献出来る業務体系の構築を目指します。

2. 経 営 方 針

弊社は、行動方針を定め、弊社の事業活動において生じる環境負荷の削減に努めます。

また、顧客、同業者、近隣住民とのコミュニケーションを通じて、環境経営の継続的改善を図ります。

- 1.事業活動による電力・軽油の使用量低減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努める。
- 2.構内での業務活動に伴う上水使用量を削減する。
- 3.事務所から排出される事業系一般廃棄物が増えない様に管理する。
- 4.古紙混在物のリサイクルを推進する。
- 5.古紙出荷量の拡大を図る。
- 6.弊社の事業活動に関連する環境法規を遵守する。
- 7.環境活動の一環として、構内外の清掃に努め、近隣住民との調和を図る。
- 8.環境経営方針を全従業員に周知し、社外にも公表する。

制定日： 2020 年 9 月 1 日

東名紙材株式会社

代表取締役社長 神谷史朗

8. 環境経営目標-

環境経営目標		年度目標 策定基準	年度目標	中期目標	
		2020 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
1	二酸化炭素排出量 の削減	168,819.60 kg-CO ₂	1.25%減 166,709.36 kg-CO ₂	1.50%減 166,287.31 kg-CO	1.65%減 166,034.08 kg-CO
1-1	電力使用量削減	176,527 k W h	1.25%減 174,320.41 k W h	1.50%減 173,879.10 k W h	1.65%減 173,614.30 k W h
1-2	軽油消費量削減	25,813.88L	1.25%減 25,491.21L	1.50%減 25,426.67 L	1.65%減 25,387.95 L
2	水資源投入量削減 (上水使用量)	992.00m ³	1.25%減 979.60m ³	1.50%減 977.12m ³	1.65%減 975.63m ³
3	事業系一般廃棄物 の管理	ゴミ袋 87 袋	ゴミ袋 110/年 (1 回 3 袋以内)	ゴミ袋 110/年 (1 回 3 袋以内)	ゴミ袋 110/年 (1 回 3 袋以内)
4	古紙混在物の リサイクル促進 (RPF を出荷)	RPF 出荷 100%	RPF 出荷 100%	RPF 出荷 100%	RPF 出荷 100%
5	古紙出荷量の 増加	14,637t	1.25%増 14,820t	1.30%増 14,827 t	1.35%増 14,834.60 t
7	地域の環境配慮 (近隣住民との調和)	工場周辺清掃 150 回/年	最低必要目標回数 300 回以上/年	最低必要目標回数 350 回以上/年	最低必要目標回数 350 回以上/年

※化学物質の使用は無いため、目標設定しない。

※活動年度の電力使用による二酸化炭素排出係数は 0.564kg-CO₂ /kWh

9.環境経営計画

環境目標／目標値	環境活動計画／施策(取組項目)	担当	スケジュール
1.二酸化炭素排出量の削減			
1-1 電力使用量削減	1.梱包機・コンベアのスイッチ管理(on/off) 2.構内照明スイッチ管理(天候時間帯対応) 3.事務所エアコンフィルター掃除(使用月 2 回) 4.事務所照明管理(天候時間帯対応) 5.季節時間帯による事務所の温度調節 6.照明の LED 化 7.梱包機・コンベアの日常管理強化	飯塚・亀井	1.毎日 2.毎日 3.夏冬 2 回 4.随時 5.随時 6. 7.毎日
1-2 軽油使用量削減	1.停車中のアイドリングストップ 2.急発進・急加速厳禁 3.取引先迄のルートメータを記録する。 4.取引先での作業時間を記録する。 5.タイヤ空気圧のチェック	中村・金田	1.毎日 2.毎日 3.毎日 4.毎日 5.給油時
2.水資源投入量削減	1.女子トイレの水流調節 2.圧縮機冷却水スプリンクラー点検 3.構内 3 か所の蛇口の点検 4.構内散水回数を記録する。 5.水漏れが無い点検する。	倉橋・大久保	1.毎日 2.毎日 3.毎日 4.毎日 5.毎日
3.事業系一般廃棄物の管理 (事務所ごみ)	一般廃棄物の分別徹底 1. 燃えるゴミと資源ゴミ 2. コピー用紙と雑紙のリサイクルの徹底 3. ゴミ袋の数の把握(1 回 3 袋迄)	佐田・中島	毎日
4.古紙混在物の資源化 (RPF 原料としての利用)	1. RPF 事業者へ依頼 2. 廃プラの分別	神谷	その都度
5.古紙出荷量の増加	1.注文枠に対する出荷量の未納を防ぐ為に仕入量の確保と綿密な配車計画を立てる。 2.古紙搬入業者に対する構内作業現場での迅速な対応とキメ細かなサービスに尽力する。	神谷・松村	その都度
6.地域への環境配慮 工場周辺の清掃	1.毎週 1 回以上早朝清掃実施 2.終業時工場周辺チェック 3.強風による構内外へ古紙の飛散状況に応じて随時実施する。	亀井	1.毎週 2.毎日 3.随時

10. 環境経営計画に基づき実施した取組内容



1 1. 環境経営目標の実績とその評価・是正処置

環境経営目標		年度目標	年度実績		評価・是正処置
		2024 年度	2024 年度	達成状況 (%)	
1	二酸化炭素排出量の削減	1.25%削減 166,709.36kg-CO ₂	140,459.03 kg-CO ₂	◎ 118.69	電力消費削減の好結果と軽油消費削減の取組の励行により、目標達成出来た。
1-1	電力使用量削減	1.25%削減 174,320.41kWh	125,817.00kWh	◎ 138.55	ベアラ機等の電源管理等、作業現場での地道な活動の効果もあり目標を達成出来た。次年度も同様の取り組みを続行する。
1-2	軽油消費量削減	1.25%削減 25,491.21L	25,495.36L	△ 99.98	自社便による古紙回収業務の増加の影響が出たが、達成状況はほぼ 100%であった。次年度も同様の取組を続行する。
2	水資源投入量削減 (上水使用量)	1.25%削減 979.60m ³	800.00m ³	◎ 122.45	圧縮機の水漏れ事故もなく、地道な取組の効果で、目標を達成出来た。
3	事業系一般廃棄物の管理	110 袋 (1 回 3 袋以内)	84 袋／年	◎ 130.95	無理無く、地道な活動で、目標を達成出来た。
4	古紙混在物のリサイクル促進 (RPF を出荷)	RPF 出荷 100%	出荷 34.28t (混在物 36.22t)	△ 94.64	選別作業により発生した RPF 原材料の一部を回収先業者に搬出している為 100%の出荷の妨げになっている。、業者への搬出停止し、出荷率 100%を図る。
5	古紙出荷量の増加	1.25%増加 14,820t	14,005t	△ 94.50	デジタル化の影響で新聞や雑誌古紙の発生が減少し、メーカーの紙製品減産の影響を受け問屋の出荷量増加の見込みは年々厳しくなっている。広い視野での営業活動に邁進したい。
6	地域の環境配慮 工場周辺清掃	300 回／年	557 回／年	◎ 185.66	毎朝の清掃以外でも、風の強い日は飛散防止のため複数回実施。紙ごみ飛散の苦情なし。

評価結果 ◎110%以上 ○100%以上 110%未満 △90%以上 100%未満 ▼60%以上 80%未満
 ▲80%以上 90%未満

※活動年度の電力使用による二酸化炭素排出係数は 0.564kg-CO₂ /kWh

1 2.環境経営計画の取り組み結果と評価

環境目標／結果	環境活動計画／施策(取組項目)	取組	効果
1.二酸化炭素排出量の削減	電力と軽油の消費量を削減する		
1-1 電力使用量削減 ◎	1.梱包機・コンベアのスイッチ管理(on/off) 2.構内照明スイッチ管理(天候時間帯対応) 3.事務所エアコンフィルター掃除(使用月 2 回) 4.事務所照明管理(天候時間帯対応) 5.季節時間帯による事務所の温度調節 6.照明の LED 化 7.梱包機・コンベアの日常管理強化	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ○ 6. ○ 7. ◎	1. ◎ 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. ○ 6. ○ 7. ◎
1-2 軽油使用量削減 △	8 車中のアイドリングストップ 9.急発進・急加速厳禁 10.取引先迄のルートメタを記録する。 11.取引先での作業時間を記録する。 12.タイヤ空気圧のチェック	8. ◎ 9. ◎ 10. ◎ 11. ◎ 12. ◎	8. ◎ 9. ○ 10. ○ 11. ○ 12. ○
2.上水使用量削減 ○	1.女子トイレの水流調節 2.圧縮機冷却水スプリンクラー点検 3.構内 3 か所の蛇口の点検 4.構内散水回数を記録する。 5 水漏れが無い点検する。	1. ○ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎	1. ○ 2. ◎ 3. ○毎日 4. ○毎日 5. ○毎日
3.事業系一般廃棄物の管理 ◎	一般廃棄物の分別徹底 1.燃えるゴミと資源ゴミ 2.コピー用紙と雑紙のリサイクルの徹底 3.ゴミ袋の数の把握(1 回 3 袋迄)		毎日
4.古紙混在物の資源化 (RPF を出荷) △	1.RPF 事業者へ依頼 2.廃プラの分別	1.◎ 2.◎	1. ○ 2. ◎
5.古紙出荷量の拡大 製紙会社からの注文枠の拡大を図る △	1.注文枠に対する出荷量の未納を防ぐ為に仕入量の確保と綿密な配車計画を立てる。 2 古紙搬入業者に対する構内作業現場での迅速な対応とキメ細かなサービスに尽力する。	1 ○ 2 ◎	1. ○ 2. ○
6.地域への環境配慮 工場周辺の清掃 ◎	1.毎週 1 回以上早朝清掃実施 2.終業時工場周辺チェック 3.強風による構内外へ古紙の飛散状況に応じて随時実施する。	1.◎ 2.◎ 3.◎	1.○ 2.◎ 3.○

取り組み 実施 ○ ほぼ実施 △ 実施できず × 計画◇

効果 非常に大きい ◎ 大きい ○ 少ない △ 無い ×

結果 100%以上 110%未満○ 110%以上◎ 90%以上 100%未満 △ 80%以上 90%未満▲ 80%未満▼

1 3. 次年度の環境経営目標-

環境経営目標		次年度目標基準	次年度目標	中期目標	
		2020 年度実績	2025 年度	2026 年度	2027 年度
1	二酸化炭素排出量の削減	168,819.60-CO	1.50%削減 166,287.31kg-CO2	1.65%削減 166,034.08kg-CO2	1.70%削減 165,949.67kg-CO2
1-1	電力使用量削減	176,527 kWh	1.50%削減 173,879.10 kWh	1.65%削減 173,614.30 kWh	1.70%削減 173,526.04 kWh
1-2	軽油消費量削減	25,813.88L	1.50%削減 25,426.67 L	1.65%削減 25,357.95 L	1.70%削減 25,375.04 L
2	水資源投入量削減 (上水使用量)	992m ³	1.50%削減 977.12m ³	1.65%削減 975.63m ³	1.70%削減 975.14m ³
3	一般廃棄物の削減 (ごみ袋数)	87 袋／年 (1 回 3 袋)	110 袋／年 (1 回 3 袋)	110 袋／年 (1 回 3 袋)	110 袋／年 (1 回 3 袋)
4	古紙混在物の リサイクル促進 (RPF を出荷)	RPF 出荷 100%	RPF 出荷 100%	RPF 出荷 100%	RPF 出荷 100%
5	古紙出荷量の 増加	14,637t	1.30%増加 14,827 t	1.35%増加 14,834.60 t	1.40%増加 14,841.92 t
7	地域の環境配慮 (近隣住民との調和)	554 回／年	最低必要目標回数 350 回以上／年	最低必要目標回数 350 回以上／年	最低必要目標回数 350 回以上／年

※化学物質の使用は無いため、目標設定しない。

※電力の二酸化炭素排出係数は 0.564kg-CO₂ /kWh

1 4.次年度環境経営活動計画

環境目標／目標値	環境活動計画／施策(取組項目)	担当	スケジュール
1.二酸化炭素排出量の削減	電力と軽油の消費量を削減する		
1-1 電力使用量削減	1.梱包機・コンベアのスイッチ管理(on/off) 2.構内照明スイッチ管理(天候時間帯対応) 3.事務所エアコンフィルター掃除(使用月 2 回) 4.事務所照明管理(天候時間帯対応) 5.季節時間帯による事務所の温度調節 6.照明の LED 化 7.梱包機・コンベアの日常管理強化	飯塚・亀井	1.毎日 2.毎日 3.夏冬 2 回 4.随時 5.随時 6. 7.毎日
1-2 軽油使用量削減	8.停車中のアイドリングストップ 9.急発進・急加速厳禁 10.取引先迄のルートマップを記録する。 11.取引先での作業時間を記録する。 12.タイヤ空気圧のチェック	中村・金田	8.毎日 9.毎日 10.毎日 11.毎日 12.給油時
2.水資源投入量削減	1.女子トイレの水流調節 2.圧縮機冷却水スプリンクラー点検 3.構内 3 か所の蛇口の点検 4.構内散水回数を記録する。 5.水漏れが無い点検する。	倉橋・大久保	1.毎日 2.毎日 3.毎日 4.毎日 5.毎日
3.事業系一般廃棄物の管理 事務所から排出されるゴミの排出抑制	一般廃棄物の分別徹底 1.燃えるゴミと資源ゴミ 2.コピー用紙と雑紙のリサイクルの徹底 3.ゴミ袋の数の把握(1 回 3 袋迄)	佐田・中島	毎日
4.古紙混在物の資源化 リサイクル促進 RPF 原料として出荷→100%	1. RPF 事業者へ依頼 2. 廃プラの分別	神谷	その都度
5.環境配慮製品 古紙出荷量の拡大 製紙会社からの注文枠の拡大を図る	1.注文枠に対する出荷量の未納を防ぐ為に仕入量の確保と綿密な配車計画を立てる。 2. 古紙搬入業者に対する構内作業現場での迅速な対応とキメ細かなサービスに尽力する。 3.既存の出荷先(出荷枠)以外の出荷枠のルートの開拓を視野に入れた営業に尽力する。	神谷・松村	その都度
6.地域への環境配慮 工場周辺の清掃	1.毎週 1 回以上早朝清掃実施 2.終業時工場周辺チェック 3.強風による構内外へ古紙の飛散状況に応じて随時実施する。	亀井	1.毎週 2.毎日 3.随時

1 5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

遵守しなければならない環境法

廃棄物処理法（平塚市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例）
消防法（平塚市火災予防条例）
騒音規制法、振動防止法（神奈川県生活環境の保全に関する条例）
自動車NO _x ・PM法
リサイクル法
フロン排出抑制法

❖違反・訴訟の有無

環境関連法規等の遵守状況を確認し、評価した結果、2024 年度活動期間において、環境関連法規への違反はありません。尚、関係当局よりの環境法規等の違反、訴訟等の指摘は過去 3 年間ありません。また、利害関係者からの苦情もありません

1 6. 代表者による全体評価と見直しの結果

実施月日：R7/5/29

（1）全体評価

2024 年度の環境経営システム運用期間を通して、環境経営目標の達成状況、経営計画の実施及び環境法規の遵守状況から判断すると、環境経営方針に掲げた環境への取組活動は、全て励行出来た結果、二酸化炭素排出量、電力、水資源の消費削減目標は達成出来たが、軽油消費削減に関しては、古紙引き取り依頼の増加に伴い消費が増加し、目標は未達成であったが、100%に近い達成率で、評価出来る。事業活動に必須の古紙回収（自社回収）と構内処理業務増加による軽油消費量への影響をいかに軽減出来るかは、今後の活動の重要な課題である。古紙出荷量に関しては、拡大目標に届かなかった。既存の出荷枠の確保のみに頼らない方向性を模索し、営業活動に力を入れ、出荷枠の拡大を図るべきである。

代表が直接関わっているリサイクル促進活動では、1 社に RPF を出荷しているが、次年度からも継続的に可能な限り、出荷して行きたい。

環境経営システム、環境経営方針は変更しない。

（2）個々の評価

① 二酸化炭素排出量では、電力、軽油共に取組を励行した結果、電力消費量の削減状況が良かった事と、軽油消費削減の取組もあと一歩で 100%に届く好結果を出せた事で、排出量削減の目標を達成出来た。次年度も同様の取組を続行する。

② 上水使用量では、地道な取組を励行し、冷却装置等の故障も無く、無事目標を達成出来た。次年度も今年度同様の取組を継続する。

③ 事業系一般廃棄物の管理は、事務所内業務に負担の掛からない範囲で、事務所から排出されるゴミの量を増加させない様にする取り組みで、ゴミ袋使用数を制限し、排出時袋数、袋毎の計量と年間の使用量記録把握のみの取組方である。事務仕事に支障が無い程度の管理を次年度も続行する。

③ 古紙混在物のリサイクル推進は、引き続き、1 社に RPF 原料を出荷。

次年度以降から、回収先の業者への原材料の一部の搬出を停止し、出荷率を 100%にする事を図る。
構内作業には、引き続き選別作業に尽力する様、環境管理責任者を通して指示した。

⑤ 古紙出荷量増加目標に関しては、昨年度から継続的に構内のみならず、自社便で構外への回収業務に力を入れたが、目標にあと一步届かなかった。しかし、日本、世界の経済状況の低迷のみならず、近年データのデジタル化が進み、継続的に企業・一般家庭から排出される古紙量が減少し、製紙会社が紙製品を減産する影響下にある古紙問屋業界にとって、出荷量を伸ばす事が難しい状況が続いている。弊社にとっても出荷量増加目標達成は、一層困難になりつつある。次年度以降は、現在確保されている出荷枠のみならず、別枠の出荷ルートの開拓をも視野に入れた営業に尽力し、出荷枠の拡大を図る

⑥エコアクション 21 を構築し、システム運営するに当り、該当する環境法規を確認する事で、適用事項が明確になり、取組が必要な対象(消防法、廃棄物処理法)を具体的に把握出来た。今後、更新情報の収集に努める。

⑦構内外の清掃では、工場周辺の清掃に力を入れ、計画日以外でも、強風や、積雪などにより急遽清掃の必要が生じた場合などは構内作業者が各自積極的に取り組む姿勢が見られた。天候や、作業現場の状況により、構外清掃時間の調整をするなどの工夫をし、早朝の基本活動に加え、終業時の近隣巡回も定着し、日常業務の一つとして習慣化出来ている。次年度も引き続き同様の取り組みを続行する。

(3) 見直しの結果

- ・環境経営方針

変更しない

- ・環境経営目標

二酸化炭素排出量、電力使用量、水資源使用量は目標を達成出来たが、軽油消費量、古紙出荷量に関しては未達成であった。

これは上に掲げた理由による。目標策定基準を 2020 年度実績とし、次年度以降も継続する。

- ・環境経営計画。

計画施策は従来から継続してきた施策であり、さらに効果ある計画を、活動の中で考えていく。

- ・実施体制

変更しない

以上